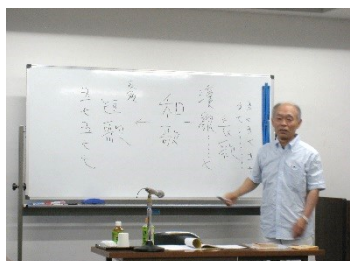


*** 文芸館主催の講座紹介 III ***



講座紹介も三回目になりました。

前回の『川柳入門講座』『文章教室Ⅰ』に続いて、今回は、『短歌入門講座』と『俳句入門講座(前期)』の様子です。

『短歌入門講座』は、短歌を初めて学ぼうという人のための講座です。短歌の知識や作り方・鑑賞の仕方について楽しく学んでいます。

＜短歌入門講座の様子＞ 講師は、村松建彦先生(歌誌「塔」同人)です。

『俳句入門講座(前期)』も始まりました。俳句を初めて学ぼうとする人のための講座です。

講師は、鈴木浩之先生(俳誌「海坂」主宰)です。

毎回、自然の草花を机の上に飾りながら、和やかな雰囲気の中、熱心に講座が進められています。



＜俳句入門講座の様子＞

子どもたちのための文芸館講座・・・参加者募集中



○ 夏休み絵本づくり講座(3～6年生対象・付添不要)

7月25日(土) 13:30～16:00

*牛乳パックで簡単にできる、からくり絵本を1日で作ります。参加費500円

*募集期間 6月20日～7月15日 *定員30名 多数抽選

○ 10歳からの少年・少女俳句入門講座(4～6年生対象・付添不要)

8月4日(火)・6日(木)・7日(金) 全3回 10:00～11:30

*俳句について知り、自然と触れ合いながら楽しく俳句を作ります。参加費500円

*募集期間 6月20日～7月25日 *定員10名 多数抽選

※ 往復はがきに、講座名・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号
返信用にご自分の住所・氏名を書いて

「浜松文芸館」〒430-0916 浜松市中区早馬町2-1 までお申し込みください。

次回 企画展

7月25日(土)～10月25日(日)

スズキコージの絵本原画と浜松の手づくり絵本展

井上靖と浜松 12

佐久間・天竜川河畔の井上靖詩碑

佐久間高校の南東、大千瀬川と交わる天竜川の河川敷に、縦1, 35m、横3mの次の詩を刻んだ黒花崗岩の詩碑が建っている。

天龍川・讚

北斗と織姫の間に横たわっている星座は、天龍と名付けられている。長く、美しい星の帯。あるところは烈しく、あるところは静かに輝いている。その空高く竝んだ星たちが、己が出生の地を、大和島根に求めんとすると、列島のほぼ中央、天龍溪谷ということになるろうか。諏訪湖と遠州灘を結ぶ烈しく、美しい水の帯。あるところは澱み、あるところは急湍をなし、時に流れは身を翻し、龍となって、天を窺っている。

井上靖

当時の佐久間町と井上靖との関わりは、昭和30年9月から毎日新聞に243回にわたって連載した「満ちてくる潮」の主人公を佐久間ダムの建築技師に設定、取材に訪れたことに始まる。ダムはその翌年に完成している。井上靖を案内した小原侃之輔佐久間町長は、「天竜川岸に立ちて」という小文に当時を次のように述懐している。

先生の文学碑は天竜川が大きく蛇行して昔の姿をとどめる川岸に、昭和六十三年秋に建立された。その年の春、碑文や位置の打ち合わせに来町された時は満開の桜に殊の外喜ばれた。(略)あの日、満開の桜の中で佐久間ダム堤にいつまでも立たれていたお姿を偲ぶ時、先生の心境が今なお切々と伝わってくる思いがする。

建立は昭和63年(1988)10月10日。設計と制作は、彫刻家舟越保武東京芸大名誉教授が担当した。碑の文字は井上靖のペン書き自筆。場所は、蛇行する天竜川が龍のように見え、夜は星座の天龍座がよく見えるということで、靖自身が選んだもの。

この詩は、2か月前の8月15日発行の詩誌「焰」第12号に発表している。

午前10時から行われた除幕式には靖が挨拶をしている。前日に妻子と共に訪れ、記念文化講演会や、星を見る会、民話語りの夕べなどの催しがあった。その夜、靖は中部電力(株)の流星倶楽部に、奥さんと子供は近くの民宿かじか荘に泊まった。

昭和30年(1955)、靖は「世界」7月号に短編小説「川の話」を発表している。この中で、「自分の好きな川を一つ上げるとすれば天竜川」で、天竜川は「諏訪湖にその先端ひっかけた全く濃いコバルト色の一本の鎖」であり、その広い碛に立つと、

鎖状の曲がりくねった道を辿り辿って漸くにしてこの広い明るい河口に流れ来た水は他の川に感ずる遙かさとは別種の、もっと切ない一途なものを感じる。

と書いている。35年後の平成2年4月17日、小原侃之輔ら浜松北高同窓生5人は、来年の同窓会総会での講演依頼に世田谷区桜の井上靖邸を訪れ、快諾を得た。しかし後輩の願いもむなしく、靖は9か月後の1月29日、83歳でこの世を去ってしまった。

浜松文芸館講演会 講師：和久田雅之